

# 2023 明治安田生命 J3 リーグ 第 38 節 vs. ギラヴァンツ北九州

12/2 (土) 14:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場



## 2023 J3 ■順位表■第37節

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	愛媛	70p	+10	57	47	A●	H△
2	鹿児島	61p	+17	57	40	H○	A●
3	富山	59p	+10	57	47	H○	A△
4	今治	56p	+11	51	40	H△	A○
5	鳥取	55p	+5	56	51	A○	H○
6	八戸	55p	+2	49	47	A●	H○
7	奈良	54p	+12	44	32	A●	H●
8	岐阜	54p	+10	44	34	---	---
9	松本	54p	+5	51	46	H△	A△
10	FC大阪	53p	+4	40	36	H●	A△
11	YS横浜	52p	-1	47	48	H●	A●
12	沼津	51p	+1	46	45	A△	H○
13	岩手	51p	-2	47	49	H△	A●
14	長野	49p	-8	50	58	H△	A○
15	福島	46p	-5	37	42	A○	H●
16	讃岐	44p	-15	29	44	A○	H○
17	琉球	42p	-18	43	61	H○	A○
18	相模原	40p	-4	44	48	H○	A△
19	宮崎	38p	-21	29	50	A●	H△
20	北九州	28p	-13	32	45	A△	

1年間のご愛読  
ありがとうございました。

## today's guest : ギラヴァンツ北九州岐

2022 J3 11勝 7分 16敗 勝ち点40:13位

### 直近の対決と結果

2023/03/05
J3-01節@ミクスタ
<b>北九州 1-1 岐阜</b>
ンドカチャールズ scored.

### ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	ギラヴァンツ北九州
2023/11/25 J3-37節@タビスタ 琉球 0-1 岐阜	2023/11/26 J3-37節@ミクスタ 北九州 1-2 福島
2023/11/19 J3-36節@いわスタ 岩手 2-1 岐阜	2023/11/19 J3-36節@長野U 長野 2-2 北九州
2023/11/12 J3-35節@長良川 岐阜 1-0 讃岐	2023/11/11 J3-35節@ミクスタ 北九州 6-1 岩手

●3月に開幕した全38節・2023年J3リーグも、残りわずか。11/12(日)第35節・ホーム讃岐戦、前半は膠着した試合展開だったが、後半7分に#9山内寛史のゴールで岐阜が先制点を奪う。後半33分にPKを与えてしまうが、#31GK大野哲煥のビッグセーブで得点を許さない。その後も最後までゴールを守り切って1-0で勝利し、わずかに残るJ2昇格の望みを繋いだ。続く11/19(日)第36節・アウェイ岩手戦では、前半ATに先制点を許してしまうが、後半11分に#9山内の3試合連続ゴールで同点に。その後、何度かの得点チャンスを決められず、逆にセットプレーで追加点を奪われ、そのまま1-2で敗戦。これで岐阜のJ2昇格の望みは消えてしまった。そして、11/25(土)第37節・アウェイ連戦となる琉球戦。試合は序盤から岐阜がボールを支配するものの、相手GKの好セーブもあり、得点が生まれな。しかし後半23分に#8窪田稜が先制点を奪うと、これを守り切って1-0で岐阜が勝利した。

この3試合の結果、FC岐阜の順位は9位から8位に上昇したものの、J2昇格の可能性は完全に無くなった。そして首位・愛媛はJ3優勝・J2昇格を決めたが、2位・鹿児島と3位・富山との勝点差は2。J2昇格を懸けた両チームの決着は最終節にもつれ込んでいる。残念ながら、岐阜の今季のJ2昇格という目標は最終節を前にして潰えたが、それでもクラブを応援する地域の人々に、目の前の試合を最後まで全力で戦い抜くこと、そして勝利を届けることは、プロサッカークラブとして重要な目標だ。また、今なお勝点差±3以内に4位~13位までのチームがひしめき合っている状況と、来季からはJ3でも3位~6位による昇格プレーオフが実施されることを視野に入れるならば、今季は少しでも上の順位で終わっておくべきで、その為にも勝利が必要だ。そして何より、ホーム最終戦は勝って笑顔で終わりたいのは、誰でも同じように思い願うことだろう。

さて、今季最終節の対戦相手は、奇しくも昨季最終節と同じくギラヴァンツ北九州だ。昨季は1年でのJ2復帰を目指したが、結果は13位。今季は、新たに田坂和昭氏を監督に招へいしてスタッフも刷新、多くの大卒選手を獲得。開幕戦では岐阜に引き分け、第2節は讃岐に勝利したものの、その後に11試合未勝利など、19位(=JFL降格圏)を脱することができずに低迷。第25節後の9/5(火)に田坂監督は辞任し、小林伸二スポーツダイレクターが後任監督に就任。しかし、なかなか成績は向上かず、第34節で最下位が確定(なお、最終節を終えたJFL上位2チームがJ3昇格条件を満たしていないため、降格は回避された。)。11/22(水)に小林監督及びコーチングスタッフの退任が発表されており、北九州の選手たちも、最終節を勝利で飾りたい気持ちは同じはずだ。

北九州との通算対戦成績は、6勝2分9敗・18得点23失点。だが、北九州とは16年~21年の間は同一カテゴリーではない。参考とすべき直近3試合の対戦では、0勝1分2敗・3得点5失点と岐阜が負け越している。昨年の最終節・11/20(日)ホーム戦は、前半に#38藤岡浩介のゴールで先制したものの、試合終盤に逆転されて1-2での敗戦。前対戦の開幕戦・3/5(日)アウェイ戦は、#45ンドカのゴールで先制するが、試合終盤に追いつかれて1-1でのドロー。今節こそは、しっかりとJ3での初勝利を掴まなければならない。

北九州で最も警戒すべき選手には、まずは現在6得点の#10岡田優希を挙げる。しかし、直近5試合で見ると、3得点の#29高昇辰と2得点の#8前川大河の方を警戒すべきかもしれない。一方の岐阜は、守備の要である#40川上竜(18年~20年には北九州に在籍)が、累積警告で出場停止なのが不安材料だが、代わりとなる選手の奮起に期待したい。また、岐阜の天野コーチは、北九州の小林監督の下でコーチを3年間務め、昨季は北九州の監督を務めている。その師弟対決にも注目したい。

長かったはずの今シーズンも、もう1試合で終わりを迎えることとなった。少しの休憩を挟んで、また新しいシーズンがやってくる。チームを去る選手と訪れる選手が入れ替わり、来季は新たなチームとなるだろう。このチームの見納めとなる最終節、その最後の勇姿を目に焼き付けながら、その活躍を後押しする拍手や声援を、最後まで送り続けよう。今季最後の“HYPER CHANT”を歌い、そして、来季も再び、このホームスタジアム・岐阜メモリアルセンター長良川競技場に集い、僕らのクラブ・FC岐阜を支え続けよう。(ささたく)

## 大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

今日もここから  
串かつで一杯

煮込み珍道中  
串かつ

14:30 ~ 22:00  
※売り切れ次第、終了です  
火、水、金、土(祝日除く)営業  
TEL. 058-252-1580

忠節橋  
通り

JR 岐阜駅  
北口より  
北西方面へ  
徒歩約10分

★ アミカ

ドミ  
イン

JR  
岐阜駅

投稿募集!! [gidaidohri@gmail.com](mailto:gidaidohri@gmail.com)

## 【第35節】岐阜 1-0 讃岐

●決してラクな試合ではなかったけど、粘り勝ちできた。讃岐にPKを与えたシーン、キッカーがやたら助走に時間掛けてたので（FC東京のディエゴ・オリヴェイラのように）、「これ時間掛けてたらストップあるんじゃないか？」って思ってた、キーパーの大野哲煥が見事にストップ！

山内寛史の決勝点となったゴール、今年自分が見た中ではナンバー1ゴールと言っていいかも。窪田からのパスを受けてクルッとターンしてマークを外して素早く左足を一閃したゴラッソ。残り3試合いい形を続けて締めくくりたいね。（岐阜の誇り）

●J2昇格のかすかな望みを繋ぎ続けるためには、もう岐阜には勝利しか許されない、正に“背水の陣”。だからこそ、試合序盤から積極的に攻めて欲しかったんだけど…勝利を意識し過ぎてるのか、どうにも岐阜の選手たちの動きがよくない。というか、いつもホーム戦の方が、良く言えば慎重な立ち上がり、悪く言えば後ろ向きなプレーを多く見せているような気がするの、僕の気のせいなんですか…（溜息）。んで、讃岐の方が積極的で、しかも相手には#48川西翔太がいるし、20年に圧倒的な強さでJ3優勝を果たした秋田の中心選手だった#7江口直生までいる。なんで讃岐にいるのか個人的には分からない（失礼！）選手で、やっぱり相変わらずFKが上手いから、何度もヒヤヒヤさせられました。んで、岐阜はハーフタイムに2枚替え、これで岐阜の攻撃もようやく活性化。すると後半7分、#3宇賀神のサイドチェンジを#8窪田が受けて、ボックス内に並んだ相手選手4人の中間に入り込んできた#9山内寛史にボールを送る。#9山内は、そのボールのベクトルを活かしつつコントロールして、相手をかわしつつゴール方向に身体を向けると同時に素早く左足を振り抜いて、鋭いシュートはゴールネット上に叩き込まれて先制点！なんつーゴラッソですか、アレ。僕は「うまいっ！」って叫んでました（笑）。これで2試合連続ゴール、直近6試合で4ゴール。これは「いかん個人昇格してまう」レベル。強化部さん、しっかりとお願いしますよ？（苦笑）だけど、後半33分にPKを与えて万事休す…と思ったら、#31GK大野哲煥がビッグセーブ！キッカーがチョコチョコとステップを踏んだから「これは！」って思ったし、その駆け引きに全く動じなかった#31GKチョールに、ホントに助けられました。シュート数で讃岐に上回られたけれど、なんとか無失点で抑えて1-0での勝利。そして、岐阜の無失点勝利って第15節・6/24（土）アウェイ福島戦以来なのね（苦笑）。そして鹿児島と富山が揃って負ける…いやー、ホントに怖いスポーツですね、サッカーって（苦笑）。（ささたく）

●キッカーが動き出した瞬間、「あ、勝ったな。」と感じたのはなぜだろう？いや、勝つといっても試合のソレではなく、このPKは外れる、もしくはチョールファンが止めるってコトですが。

いずれにせよ、ビッグ・セーブ。でかした！チョールファン。直接の原因となった竜のプレー自体は「ちょっと厳しいんじゃないですかねえ？」と言いたい気もしないワケではない。ただ、アレは竜とチョールファンの関係ミス。竜がブロックしてる間に前に出て処理しなきゃいけなかった。ある意味、自作自演かな（苦笑）。

とはいえ、後半はPKストップ以外にもセットプレーからのヘディングを左手一本で弾いた場面もある。次節に望みを繋げてくれる大きな仕事。ありがとう、チョールファン。ヒロフミの決勝ゴールも素晴らしい。ウガとリョウも最高のパスだったね。

あ、それと讃岐の48番。誰ですか？あのイヤラシイ選手。ホント、厄介でした。PKの前に交替してくれてラッキーだった。もしかして、最大の勝因かもね（笑）。（ぐん、）

## 【第36節】岩手 2-1 岐阜

●ホーム連戦を連勝で飾り、アウェイ岩手の地に乗り込んだ岐阜。3連勝でJ2昇格のわずかな望みを繋ぎ続けるために、積極的に攻撃を仕掛ける岐阜だったけれど、アクシデントが襲う。前半34分に#45ンドカが負傷して#11藤岡と交替になったのも上野監督にとっては誤算だったけれど、さらに前半42分に#7透馬も負傷。前半で2回の交替枠は使えないと判断したのか、残り時間を1人欠いた状態で戦ったら、これもまた裏目に出てしまい、前半ATにゴール前の競り合いから先制点を許してしまう。かなり不利な状況で後半に入った岐阜だったけれど、後半11分にCKのこぼれ球を撃ち抜いた#9山内寛史のシュートで同点！これで勢いづいた岐阜だったけれど、直後の決定機で#8窪田が痛恨のシュートミス…（溜息）。まあ、あのヒールシュートが決まっていたら、それはまたゴラッソだったんですが、それでも決めて欲しかった…。それと、前半18分の#9山内のGKとの1対1。“たられば”ですが、あのどちらかが決まっていれば…。岩手は前節で北九州に1-6と大敗していたことも影響して、その後の守備が集中していたと思う。一方の岐阜は、予定外の選手交代と攻め疲れ？が影響したのか、後半26分にFKで失点…（溜息）。なんとか、まずは同点に追いつくべく攻勢をかける岐阜だったが、ゴールが遠い。結局、そのまま1-2で敗戦。鹿児島と富山が揃って連敗したので、勝利していれば、わずかな望みを繋げ続けることができたけれど、ここで終戦。非常に残念と思いつつも、でもまあ、残り2試合まで希望が見られていたんだから、ここ数年のことを考えると遙かにマシで（苦笑）。これからは、来季を視野に入れた試合（というか、若手選手の底上げ）をして欲しいと思います。（ささたく）

●さて、試合結果により来季のカテゴリーが確定したワケで。予期せぬ負傷交代、それも2人。しかも、前半で……という気の毒な展開ではあった。（ずいぶんと、他人行儀な感想だが）しかし、そんな流れになったのも、3度あった決定機、特にGKとの1対1が2回もあったのに決めきれなかったのが影響した……というのは穿ち過ぎかな？先制してたら勝ってた、とまでは言わないが、ウチのペースで進められたとは思う。先制された場面は一人少ない状況。健誠のアップが出来てなかったのかな？もったいなかったね。それから決勝点。チョールファンのミスとは言わないけど、彼にとっては悔いの残るプレーだったんじゃないだろうか。

せっかく、2位のクラブが逆転負けをしてくれて、その他の上位も足並みを揃えてくれたのに応えられなかったのが残念だよ。なんとか、最終節、せめて、次節までは可能性を……という祈りにも似たような希望も潰えた。いや、ゼイタクな望みなのはわかっていたけどさ。あとは、久しぶりのアウェイ琉球と最終節の屋台村への御礼参りを楽しむとしよう。（ぐん、）

## 【第37節】琉球 0-1 岐阜

●前節の敗戦で、J2昇格の可能性が完全に消えてしまった岐阜。さて、この試合をどんなスタンスで迎えるのか…と、前節で負傷交代した#7透馬と#45チャーは無理させずにベンチ外なのは分かるとして、それ以外のメンツはあんまり変わらないのね。最後まで少しでも上の順位を目指すのは、それはそれでアリなんですけど…と、僕はやや複雑な心境でした（苦笑）。さて、試合は序盤から岐阜がボールを支配して、積極的に琉球ゴールを目指す。しかし、琉球の#1GKダニー・カルバハルが何度も好セーブをみせ、得点は奪えない。いやー、このキーパーが契約満了だし、他にも有力選手が何人も満了だし、琉球も大変だな…とか思っていると、時折カウンターを浴びてピンチを迎える岐阜。しかし、そこは岐阜の守護神#1GK茂木秀のファインセーブ。両チームのGKの活躍で、

締まった試合展開。これはゴールが遠いかな…とっていたんだけど、後半23分に、好セーブを見せていた#1 GKカルバハルが、まさかのキックミスで#8窪田稜にパス。千載一遇のチャンスを、しっかりと#8窪田が決めて先制点！…と言うと聞こえは良いけれど、最初にパスミスしたよね、#8窪田きゅん(苦笑)。まあでも落ち着いてリカバリーして、最後はコースを狙い澄ませてゴール決めたからヨシ！(笑)その後は、やはりホーム最終戦では勝利したい琉球の攻撃に、守る時間帯が増える岐阜の選手たち。琉球のミスに助けられた場面も何度かあって、これが琉球の現在の順位を示しているのかなー、と思ったりもしました。結局、1-0のまま試合は終了。複数得点が奪えればなお良かったけれど、やはり勝利は良いものです。ただし、#40川上竜が累積警告で次節・シーズン最終節に出場停止…これまで全試合に出場していた、守備の要が不在なのは不安ですが、今季の最後も勝利で飾ってくれると信じています！(ささたく)

●試合はウノゼロ。ボクにとって、2019以来2回目のアウェイ琉球戦は、またしても勝利。最長距離の遠征、それに絡めた『ちょっと早めの冬休み』の旅がウキウキで楽しめたのありがたい。復帰したモギシューにとっても久々の『モギシュークリーム』。一本だけ「やられた！」と思ったシュートを弾き出してくれたね。来季以降に向けて、彼を全力で引き留めてくださいね？フロント様。

逆に、「契約満了のお礼をアウェイ・チームにせんでもエエやろ。カルバハルくん。」とは思。あんなプレゼント・パス、見たことないよ。リョウしかいなかったよ？あのスペース。でも、そんなパスを、いったんは相手DFに阻まれながら、もういっぺん拾って、カットインで撃ってゴールとか。もう、なんともかんとかな決勝点。それでも決めてくれてありがとう！彼も全力で引き留めてください。よろしくお祈りします。ウチが得点したところでGK交替。ケガ以外の交替なんて高校サッカーのPK職人？しか見たことないんで「懲罰か？」と思ったけど2人も契約満了なのね。ホーム最終戦だから思い出作りか。ビハインドの状況で『勝つための戦術的交代』をしないんだね。まあ、そちらが良ければそれでいいけど。追いつかれなくてよかった(苦笑)。でも、動きが重くなった野田隆之介や阿部拓馬がフル出場だからね。逆転される気はしなかったよ。それにしても、龍磨と和音のシュートがなかなか決まらない。最終戦に期待してます！(ぐん、)

## 【ホーム最終戦恒例】 今季のベストゲーム・ベストゴール・MVPは？

### ◆ベストゲーム

#### 第34節 ホーム 八戸戦

今季唯一の逆転勝利戦を挙げます。まあ本当は、先制してそのまま圧倒して勝つ方が良いでしょう(笑)、やっぱりホーム戦での逆転勝利は、スタジアム全体が盛り上がり一体感が増しますし、勝利の喜びもひとしおです。もちろん、この最終節が今季のベストゲームとなることを願っています。(ささたく)

失点シーンを含めて「もう、帰ろかな？」と考えるくらい前半だったけど、「いや、ここから逆転するのが醍醐味じゃないか。」と自分に言い聞かせて大正解！やっぱり、『信じる』って大事だね(笑)

3点とも見事なゴールだったけど、なんととっても勝ち越し弾が圧巻。ということで、今季ベスト・ゴールに続きます。(ぐん、)

ほかに思い当たるフシがない。(吉田铸造)

### ◆ベストゴール

#### No.9 山内寛史 34節 (11/4) ホーム八戸戦

チヨルファンのフィードから一度も相手に渡さず、延べ25人が繋いだゴール。クラブ史上最高、と言ってもバチは当たらないんじゃないか？特に、ペナルティ・エリア脇の陽介からの流れがもう。何回見てもたまらない。いや、ホントにご馳走様でしたって感じ。何杯も呑めるね。(ぐん、)

たしかに讃岐DFは皆さんボールウォッチャーになってたけど、「ボールウォッチャーにになってしまう」ほどのパスワーク。特に、相手ゴールエリアまで侵入してラストパスを出したおいちゃんにグッジョブ。(吉田铸造)

#### No.9 山内寛史 35節 (11/12) ホーム讃岐戦

相手選手が4人並んでいる間に入って行ってパスをもらい、ボールのベクトルを殺さずに身体を反転させながら、足を振り抜いてゴールネット上段に突き刺す。まさに“ゴラツソ”、これぞ“9番の仕事”。子供たちにお手本にしてもらいたいプレーでした。(ささたく)

### ◆MVP

#### No.1 茂木秀

自分の中では、ホームの奈良戦まではダントツでモギシューだったんだけど、負傷欠場したのがマイナスで。今季は戻って来れないだろうなぁと思ったからね。

でも、琉球戦で復帰して、いきなりのビッグ・セーブ。もうね、やっぱり、彼でしょ。来季以降に向けて、ホントのホントに全力で引き留めてくださいよ？お願いしますよ？(ぐん、)

#### No.6 北龍磨

柏木、庄司、T J、宇賀神。どうしてもベテランに注目が行きがちで、このままでいいのかな……？と不安に思ってた中での活躍。「もしかしたら、若返ることが出来るかも？」と思わせてくれる。来季はいま以上に『精度』を上げよう。期待してますよ。(吉田铸造)

#### No.40 川上竜

今季の堅守には、彼の貢献が非常に大きかったと思います。今までの岐阜にはあまりいなかった、カバーリング型の守備選手。何度ピンチを救われたことか。そして彼の“相方探し”がもう少し早ければ…と思うことも。ただし、来季はもう一列前で見てみたいとも、個人的には思っています。次点は今季終盤に爆発している#9山内寛史。来季は開幕から爆発して欲しいです。(ささたく)

## 今季の、そして 来季のFC岐阜へ。

●今季も、シーズン開始時にはコロナ感染防止対策が採られていましたが、ようやく5月からは制限が解除され、再びスタジアムに全力の声援が戻ってきました。この間の、難しい試合開催に御尽力された関係者の皆さまに対して、改めて心からの感謝と敬意を申し上げます。

さて、今季もFC岐阜はJ2昇格(もう“復帰”なんて言葉は使いません)の目標が達成できませんでしたので、来季は5年目のJ3リーグです。『J2を知らない岐阜サポ』が過半数に達しない内に、目標が達成できれば……と願いながら、過去4年間のJ3でのFC岐阜の戦績を見えます。

2020年 34試合 16勝8分10敗・勝点56  
(勝率0.47・1試合当たり勝ち点1.65)

50得点39失点(平均1.47得点1.14失点)

2021年 28試合 12勝5分11敗・勝点41  
(勝率0.43・1試合当たり勝ち点1.46)

38得点35失点(平均1.35得点1.25失点)

2022年 34試合 10勝7分17敗・勝点37  
(勝率0.29・1試合当たり勝ち点1.09)  
43得点53失点(平均1.26得点1.56失点)  
2023年 37試合 14勝12分11敗・勝点54  
(勝率0.38・1試合当たり勝ち点1.46)  
44得点34失点(平均1.19得点0.92失点)

昨季の戦績があまりにも酷かったので、僕も記憶が上書きされてしまって「今季は良いシーズンだったな♪」とか感じているんですが(苦笑)、21年とそれほど変わらないですし、20年よりは悪い戦績と言えるでしょう。もちろん、今季のJ3が大混戦で、優勝した愛媛が未だに1試合の平均勝点2未満と、最後まで白熱しているのも原因かなと思います。そして今季のチームの特徴は、やはり失点の少なさと、(残念ながら)同時に得点の少なさでしょう。まあサッカーでのチーム力はバランスが非常に重要ですから単純には語れませんが、『もう少しストライカーが覚醒してくれたらなあ…』と皆さん思っていることでしょう。今季の堅守をベースにして、来季は攻撃を…と思うのですが、僕が気になるのは、セットプレーでの得点の少なさ。これまで何度も申し上げていますが、強いチームというのは、悪い流れの試合でもセットプレー1発で、勝利を無理矢理もぎ取っていくものです。そういった試合が見られないのも、来季の懸案事項だと思います。

懸念事項と言えば、今季はJFLの“門番”が活躍してくれたおかげもあり発生しませんでした。来季以降はJFLとの入れ替えが起きる可能性が常にあります。そして、来季からはJ3でも3位～6位によるJ2昇格プレーオフがあり、リーグカップ戦(ルヴァン杯)はJ全クラブが参加するノックアウト方式の大会になります。試合数が増えるので、天皇杯も含めて、平日開催の試合も増えるでしょう。そうでなくとも酷暑の岐阜で、毎年夏場に調子を落としている(と思われる)選手たちのコンディション調整、あるいはフィジカル(走力)強化が、さらに重要になると思います。そして、特にJ3はフィジカルを重視するサッカーが強い傾向にあると感じます。岐阜は今季1試合しか逆転勝利がなく、後半に追いつかれたor競り負けた試合がいくつかあることを考えれば、まだJ3の中ではフィジカル(走力)の弱いチームだと、残念ながら判断せざるを得ません。

まだ来季のチームを指揮する監督は発表されていませんが、当然ながら上野監督の続投が既定路線でしょう。上野監督もJリーグの監督としては1年目、特にシーズン当初は想定外の苦労も多かったと思いますが、今季の経験を糧にして、来季はチーム共々“2年目の積み上げ”を見せて欲しいと、心から願っています。

(ピッチ内外の)試合運営は今季も素晴らしかったです。自他共に認めるJ有数のスタグルをはじめ、J3で圧倒的な“地域のお祭り”。コロナ制限緩和もあって、しっかりと楽しめました。“あとはチーム成績だけ”と語る僕らを、来季こそは手首がちぎれるくらいに手の平返しさせてください(苦笑)。まあ来季も、文句や愚痴を言いながら、僕は『このクラブとチームを応援(サポート)』します。サッカーが地域にある日常、スポーツで生活が豊かになる社会、つまり『Jリーグ百年構想』を、僕は来季も、一生懸命に謳歌してゆきます。

なお、今季もまた、『岐大通』をスタジアム内で配布させていただきました。クラブの格別のご配慮に、心から感謝申し上げます。来季の配布は…というか、僕ら『岐大通』の制作体制は、チーム事情よりも遙かに大変にヤバいことになっておりまして(苦笑)。マジで、記事投稿や、お手伝いしてくれる方を募集しております!(ささたく)

●「積み重ねって何だろう?」この数年、そんなコトを、ふと思う時があり。「積み上げとかいうヤツは、本当にあるのかな?」とも思うコトもある。もちろん、地元のクラブを見ての話なのは言うまでもない。

先日、山道さんの退任がリリースされた。強化の担当責任者

と思われる方は、いったい、何人変わったのか。その辺りがウチの現状の要因かもしれないな、と。そもそも、監督が変わればチームのスタイルも変わる。強化部門で一貫したモノを作らないと、作っては壊しの繰り返し。

それでも、長良川劇場の周辺、ピッチ外には『積み重ね』が出来てきたように思う。そう考えると、やっぱり、積み重ねや積み上げてのはあるんだろう。あとはピッチ内。来季も上野さんが指揮を取るんだろうと思っている。今季一年でいろんな経験を積んだんじゃないだろうか。予想していたこと、していなかったこと。それらを、ちゃんと整理出来るか。それらを来季に活かせるか。短期的には『監督の引き出し』がチームを強くするような気がする。その辺を楽しみに新しいシーズンを待ちたい。さて、いったい、どんなモノを見せてくれるのかな?(ぐん)

●昔ながらの評価「優>良>可>不可」でつけるなら『可』しかない、というシーズンだった。それも『不可』にも『良』にもなりかかった『可』だ。

思えば、混戦J3に翻弄された……というか、混戦J3の主役にはなれなかったけれど名脇役になった1年だった。だって、最高位は4位(昇格ラインに勝ち点3差)で最低位は18位(自動降格可能性ラインに勝ち点2差)だったんだよ!まさに「人生山あり谷あり」だ。

結局のところ、「今季から『J2昇格プレーオフ』が始まっていれば……」という順位に落ち着きつつある。ザックリ言ってしまうと「これが現在の我々に相応しい位置なのだ」と割り切れる、そんな結果だったし、そんな内容だった。

いろいろ思うところはある。ヤマヒロがもう少し早く覚醒してくれたら……というか、チームスタッフがヤマヒロのスタイルをもう少し早くわかってくれたら、とか。SBに固定されてチーム貢献度は目に見えるけれど、おいちゃんはボランチでOJTするんじゃないかった?とか。もう一つ踏み込むと、小松社長が言った『海外クラブとの提携』って、どうなったんですか?とか。

で、来季です。来季もJ3で戦う、つまり昇格を果たせなかったことを「今季は育成の年だった」と割り切れるかという、そうでもない。今年の夏に各チームのサポが出すフリーパーパー(この『岐大通』みたいなものを出してるサポがほかにもいます)のイベントで会った相模原サポが、自信満々で「今季は育成に全振りだから降格さえしなければいい」と言い切っていたのを記憶している。まあ、彼らも後期にベテランを何人か補強したことで自動降格圏を抜け出たってのは事実だけど、それでも「育成全振り上等!」とサポが言い切れるんだから、来季は結構ブレークするかもしれない。

さて、岐阜。そこまで割り切ってもいなかったよね、と。もちろん、クラブ事情もチーム事情もそれぞれ、今季の岐阜が行った(と思われる)「昇格を目指しながらも育成もする」という結構困難なミッションを続けるのも、あり。要するにソフトランディングなのだから、入れ替えに時間がかかる。上野監督には是非長期政権をお願いしたい。「結果が出ている」からではなく、「結果が出るのに時間がかかることをクラブはやるようとしている」からだ。もちろん、「時間をかけて結果が出る」ことが条件だけだね。(編集人:吉田鑄造)

おことわり:

この『岐大通』北九州戦号は11/28午前5時の締切で作成しています。従って、その後にクラブから発表になった契約更新、満了の情報反映は反映されていません。